
光と闇の紙一重は

祐介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と闇の紙一重は

【Zコード】

Z94170

【作者名】

祐介

【あらすじ】

闇とは決して悪ではない。光とは決して善ではない。<この前書いた『光と闇の中の』の、感想であつた台詞を使ってみまし
た>

“光と闇”

それは、

表裏一体の存在

『闇』とは決して

『悪』ではないかもしない

闇は全てを包み込む

これは悪い意味ではなく、
いい意味でとつてみよつ

それはつまり、

すべてのものを受け入れる、

そういうえれのではないだらうか？

これは決して『善』ではないかもしない

光は全てを照らし出す

つまり、

どんなことをも映し出す

ものをまつひとつもせぬ」と

それは同時に、

悪いことをも映し出すと云ふこと

一見いいことに思えるけど

”考えてみよう”

光ばかりの世界を

「テレビの一コースで、

『逮捕』『殺人』

そんなものがひつきりなしに流れるのを

けつしていい気持ちはしないだろ？

”考えてみよつ”

闇が無い世界を

一日中日が照り、

全てのものを照らす

全てより体力を奪い取っていく

”夜も無い”

安心

安寧

休憩

休めるためのものが何も揃わない

周りはきっと音でいっぱいだらつ

そんな中で休むことなどできない

(後書き)

でもまだオレはみんなに辛い
狭くて苦しい道でも
闇も無い世界を望むと思ひ。
たとえそこに
休むための場所が無くても。
醜い場所を
現実を
知るよりも
辛くて苦しい道を進もうと思ひ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9417o/>

光と闇の紙一重は

2011年1月3日18時32分発行